

意見交換会

日時：2010年5月31日 15：15－17：15

場所：JIIA 大会議室

参加者：

インドネシア側

1. Ambassador Artauli Tobing, Director General / Head of Policy Analysis and Development Agency
2. Mrs. Marina Estella Anwar Bey, Director / Head of Center of Policy Analysis and Development of Asia, Pacific and Africa Region
3. Mr. Harya Kakerasana Sidharta, Deputy Director for Asia Pacific and African Studies, Policy Analysis and Development Agency
4. Mr. Bonifatius Agung Herindra, Deputy Director of the Directorate of East Asia and Pacific Affairs
5. Mr. Ardi Hermawan, Minister Counsellor, Embassy of the Republic of Indonesia Tokyo
6. Mr. Yudho Sasongko, Head of Economic, Financial and Development Section, Office of the Minister
7. Mr. Andi Ardiansyah, Head of 2nd Asia Pacific Section, Center for Asia Pacific and African Studies, Policy Analysis and Development Agency
8. Ms. Rima Meilasari, Second Secretary, Political Section, Embassy of the Republic of Indonesia Tokyo

日本側

1. 野上 義二 JIIA 理事長兼所長
2. 高木誠一郎 JIIA 客員研究員
3. 菊池 努 JIIA 客員研究員
4. 倉田 秀也 JIIA 客員研究員
5. 中山 俊宏 JIIA 客員研究員
6. 畑佐 伸英 JIIA 研究員
7. 飯村 友紀 JIIA 研究員
8. 鈴木 隆 JIIA 研究員

(1) ASEAN や ASEAN+3、East Asia Summit を含むアジア太平洋地域のリージョナル・アーキテクチャーと (2) 鳩山政権の東アジア共同体構想をメインテーマとして、インドネシア側と JIIA 側とで意見交換が行われた。

【JIIA 側の意見】

現在、アジア太平洋地域をめぐる地域経済統合の形については、様々な意見や議論が存在している。その議論の一部には、どの国が参加してどの国はこの枠組みには参加しないというような参加国の数や参加メンバーの顔ぶれについての意見もあるようだ。しかし、そのような表面的な議論ではなく、経済統合の中身についてもっと真剣に議論していく必要がある。どういった内容について協力関係を進めていくのかという議論こそが中核となるべきである。

JIIA は、この 3 月に東アジア共同体に関するシンポジウムを主催した。鳩山総理もこのシンポジウムにお招きし、スピーチをしていただいた。本シンポジウムの報告書はまだ作成中であるが、仮製本したものを是非差し上げたい。このシンポジウムの中でも述べられているとおり、鳩山総理の東アジア共同体構想は、現時点では抽象的なものであり、具体的にどの国が参加してどのような内容のものになるかということは、示されていない。今後、この問題について議論を交わし深めていく中で、コミュニティー間の連携が強化されていくことを願う。

【インドネシア側の意見】

統合の中身について議論を深めていくという意見には賛成である。この地域における経済統合の枠組みについては、常にオープンな形で、参加国について限定するべきではない。地域統合というのは、流れであり、固定的な観念で決めるものではなく、さらに期限を設けて設立していくものでもない。地域統合の形が、ある一国の優越的な力のもとにさらされることも避けなければならない。このような一意的な均衡では、国家の安全は保たれない。多角的な均衡が存在する中で、地域統合の形が出来上がっていくことが良いだろう。

その上で、我々は ASEAN を中核としてこの地域の統合に向けた形を模索していきたいと考えている。この地域の平和と安定、そして、経済的な発展のために ASEAN が貢献できることは何かという具体的な話から進めて、それが多角的な協力や地域の緊密化へとつながっていくことが理想である。AESAN 内においても、先発国と後発国との格差があり、様々な点において必ずしも温度差がないわけではないが、アジア特有の多様性をうまく取り入れながら、この地域の中核的な役割を担っていきたい。

両者間での質疑応答も活発に行われ、大変に有意義な議論が展開された。インドネシアと日本の両国は、アジア太平洋地域の経済統合のメンバーであり、今後も共に、これらの問題について議論を交わしていくことを確認し合い、本意見交換会は終了した。

以上